

地方独立行政法人茨城県西部医療機構

令和7年度の業務実績に関する評価結果（案）

全体評価・大項目評価

令和8年7月

筑西市

I 全体評価

地方独立行政法人茨城県西部医療機構の令和7年度の業務実績については、おおむね中期目標及び中期計画の達成に向けた年度計画どおりに進んだものであった。大項目ごとの評価については、Bが3つ、Cが1つであり、また、小項目評価全体の平均については、2.6であり、「財務内容の改善に関する事項」は「やや遅れている」との判断に至ったが、全体としておおむね計画どおりに進んだと判断した。

大項目ごとの特記事項として、「1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」については、第二種感染症指定医療機関として、感染症対応体制の維持・強化を図りながら、地域の中核病院として救急医療体制の維持に努め、近隣の医療機関との連携強化により、がん、脳疾患、心疾患、糖尿病等に対する専門的医療を提供するなど、地域医療の質の向上と安全な医療提供体制の確立に努めていることを評価できる。

また、新たに最新設備を備えた「ちくせい総合健診センター」を開設し、地域における予防医療を充実化したことは評価できるが、健診受診者数が目標値に達しておらず、経営改善の観点からも、受診者数増加に向け、企業等への広報活動に注力いただきたい。

医療スタッフの確保については、従来からの取組に加え、医師紹介会社を活用することで新たな医師を確保したことは評価すべき点であるが、看護師の確保については、看護職求職者向けの病院紹介動画の作成や応募を促すスカウトメールの送信を行うなど、採用のための取組を強化しているところではあるが、年度計画の目標に達していない。引き続き、喫緊の課題として取り組んでいただきたい。

信頼性の確保については、職員による横領事案が発生したことで、社会的信頼を著しく損ねたことは極めて遺憾である。このような事案が二度と起こらないよう、全職員が高い行動規範と職業倫理に基づき業務を実施するとともに、法令順守を徹底していただきたい。

併せて、設立団体として、法人の信頼を回復するべく、内部統制を強化することにより、組織運営の改善を図るとともに、管理体制の再構築及び再発防止策の徹底を強く求める。

「2 業務運営の改善及び効率化に関する事項」については、働き方改革への取組として医師の業務負担の軽減や、長時間労働の是正のため、医師事務作業補助者による業務支援の幅を拡大したことで、タスク・シフト／シェアが推進されていることを評価できる。

また、院内保育所について、夜間保育の対象年齢を拡大するとともに、早期の職場復帰を支援するため、最低預かり年齢を緩和することで、仕事と子育ての両立を支援し、安心して働ける環境の整備に努めたことを評価できる。

一方で、効率的な運営及び管理体制の確立については、経営方針が幹部職員に十分に共有されておらず、その結果、具体的な運営方策が現場職員まで浸透していない状況であり、コンサルタントによる課題の分析は実施したが、具体的な対応策の実行が不十分であった。

また、職員満足度の向上については、職員アンケートの回答率が60%にとどまっており、現場の実態把握や結果の妥当性の観点から、更なる向上が必要である。また、アンケートを3月に実施したことで、年度内に分析がされていない状況であり、アンケート結果を次年度の年度計画等に反映ができていないことから、アンケート実施からフィードバックまでのスケジュールを見直す必要がある。職員満足度を向上させることで、離職防止や患者へのサービス向上につなげていただきたい。

「3 財務内容の改善に関する事項」については、材料費・エネルギーコストの増加など、厳しい経営環境が続くなか、病床稼働率向上やDPCを意識した病床運用、経営改善アクションプランの推進、未収金対策等に取り組んでいただいた。また、健診センターの本格稼働や診療機能強化による収益確保に努めていただいたが、経常収支比率が85.5%であり、100%を下回っていることから、十分な成果には至っておらず、医業収支比率についても、前年度から悪化している。

さらに、令和7年度には累積赤字が増大しており、法人の経営状況は厳しさを増している。収益確保とコスト削減に向け、更なる改善に取り組んでいただきたい。

「4 その他業務運営に関する事項」については、環境問題への取組として、二酸化炭素排出削減を中心とした地球温暖化対策、省エネ活動の推進、温室効果ガス削減に努めているほか、再生可能エネルギーの推進のため、ソーラーカーポートを導入することで、院内の電力需要の一部を再生可能エネルギーで供給する取組を行っている。

引き続き、筑西市が目標として掲げるゼロカーボンシティの実現に向けて、環境負荷の低減と持続可能な医療を推進していただきたい。

第2期中期目標期間（2022（令和4）年4月1日から2026（令和8）年3月31日）における最終事業年度である2025（令和7）年度については、前事業年度から継続して、急性期医療、救急医療、災害医療、感染症への対応など、医療サービス等の向上に努めていただいたことで、第2期中期計画の目標をおおむね達成できたものといえる。

一方で、物価高騰や人件費上昇が続く社会情勢において、法人の経営は厳しい状況に置かれている。財務状況については、医業収支比率が前年度から悪化しており、持続可能な経営基盤の構築には至っていない。職員一人ひとりが、現状を認識したうえで、経営参画の意識をもち、業務に取り組んでいただきたい。また、職員による横領事案の発生により、法人の社会的信頼は大きく損ねられたことから、信頼回復のために、法令順守の徹底及び内部統制の強化を求める。

第3期中期計画の初年度である2026（令和8）年度においては、新たな経営体制のもと、法令順守を徹底し、信頼の回復に努め、住民に対する医療サービスを一層充実させるとともに、経営改善に向けた取組を着実に実行することで、財務内容の改善を実現していただきたい。

Ⅱ 大項目評価

〔第1表 大項目の評価方法〕

大項目評価は、小項目評価の結果及び特記事項の記載内容を考慮し、大項目ごとに中期目標及び中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、次の5段階による評価を行う。

（地方独立行政法人茨城県西部医療機構年度評価実施要領第3条第2項第3号）

評点	評 語	小項目評価平均点	摘 要
S	特筆すべき進捗状況にある	4.5以上	各段階の評価は、大項目ごとの小項目評価評点の平均点（小数点以下第2位四捨五入）で区分する。
A	計画を上回って進んでいる	3.5以上4.5未満	
B	計画どおり進んでいる	2.5以上3.5未満	
C	やや遅れている	1.5以上2.5未満	
D	重大な改善事項がある	1.5未満	

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、2.8であり、B評価（計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価 項目数	5 大幅に上回って 実施	4 上回って実施	3 順調に実施	2 十分に実施でき ていない	1 大幅に下回る
1 医療サービスの向上	8		1	6	1	
2 医療提供体制の整備	3			1	2	
3 患者・住民サービスの 向上	4			3	1	
4 地域医療連携の強化	2			2		
5 信頼性の確保	3			2		1
合計	20	0	1	14	4	1

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 医療サービスの向上			
小項目		評価	意見等
(1)	患者中心の安全で心のこもった良質な医療の提供	3	<p>患者やその家族が安心して医療を受けられるように、事例検証に基づき、クリニカルパスの更なる充実化を図り、良質な医療の提供に努めたことを評価できる。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も継続的に感染対策を講じながら病床を運用するなど、社会情勢に即して柔軟に対応していることを評価できる。</p> <p>引き続き、入院患者やその家族が安心して医療を受けられるように、入退院支援体制や医療安全体制の充実化を推進いただきたい。</p>
(2)	急性期を中心に地域特性を反映する医療の提供	3	<p>第二種感染症指定医療機関として、地域の中心的な役割を担うため、対応体制を整備するとともに、地域の医療機関や保健所等と連携して訓練を行うなど、住民の健康と安全を守るための医療提供体制を強化したことを評価できる。</p> <p>また、急性期医療を担う医療機関として、救命率の向上に資する講習や啓発活動を積極的に実施し、地域医療の質の向上と安全な医療提供体制の確立に努めていることを評価できる。急性期を中心に対応する地域の中核病院として、地域の限りある医療資源を有効に活用するため、高度医療を実施する医療機関や地域の医療機関との機能分化を推進し、広域的な連携強化を図ることが求められる。地域全体で医療提供体制の強化に努めていただきたい。</p>
(3)	がん、脳疾患、心疾患、糖尿病への対応	3	<p>がんについて、消化器がん全般に係る腹腔鏡手術や外来での術後化学療法による医療提供を行ったほか、早期発見に向けた内視鏡等の検査を推進していることを評価できる。</p> <p>脳疾患について、JOINを活用することで、高次医療機関との連携強化に努め、速やかに専門的診療を実施できる体制を構築していることを評価できる。</p> <p>心疾患について、救急受入れを行い、高次医療機関と連携して対応しているほか、勉強会を実施して看護師等の育成に努めていることを評価できる。</p> <p>糖尿病について、初期及び安定期の治療、専門的検査、急性合併症や慢性合併症の治療など、幅広く医療を提供していることを評価できる。また、コントロール不足の患者については、教育入院を提供し、眼科及び内科が連携し、合併症の対応を行っていることを評価できる。</p>

	(4)	救急医療の取組	3	<p>救急搬送受入件数は、前年度から減少しているものの、管内の搬送件数が減少している状況においても、目標件数を達成しており、応需率の向上がみられることを評価できる。</p> <p>また、病院前救護における質の向上と充実を目指すため、筑西広域メディカルコントロール協議会において、その中心医療機関として病院前救護、救急隊救命処置への「指示・指導・助言」、「事後検証」、「教育研修、病院実習」について年間を通じて協力支援していることを評価できる。</p>
	(5)	災害拠点病院としての災害への取組	3	<p>災害拠点病院として、DMAT（災害派遣医療チーム）隊員が訓練に参加し、大規模災害に備えて、行政、警察、消防などと連携し、医療支援体制や調整能力の向上に努めるとともに、健診センター新設に伴う火災訓練やマニュアルの見直しを行い、被災時に適切に対応できるよう、組織内の連携及び協力体制の強化を図ったことを評価できる。</p> <p>また、毎年主体となって実施している防災訓練については、医師会、地域の医療機関、消防、警察、行政などの関係機関が参加し、災害時における連携を強化し、将来の新興感染症の発生を視野に入れた災害医療についても、防災訓練の中で対応体制の構築に努めたことを評価できる。</p>
	(6)	小児医療への取組	4	<p>新型コロナウイルス感染症の状況により見合わせていた、臨床研究会や連携懇話会を対面により開催し、顔の見える関係づくりと連携を強化し紹介患者増に努めていただいた。</p> <p>また、アレルギー負荷試験や検査入院を積極的に受け入れるとともに、在宅医療後方支援病院として、在宅療養支援診療所と連携し、要請のあったレスパイト入院を全件受け入れたことを評価できる。</p>
	(7)	地域包括ケアシステムの推進	2	<p>地域包括ケアシステムの推進に向け、茨城県西部メディカルセンターにおいては、急性期医療を提供した患者の退院支援として、社会福祉士や看護師などが連携して対応を行ったことを評価できる。</p> <p>また、地域の医療・介護の関係機関との連携を強化し、在宅療養支援の充実化を図ったことを評価できる。</p> <p>一方で、重症度の高い末期患者等が多い患者構成が利用者数に影響を与えており、訪問診療件数及び訪問看護件数が目標値に対して、大きく下回っている状況である。地域包括ケアシステムを更に推進するために、茨城県西部メディカルセンター、筑西診療所及び地域の医療機関等と連携の強化を図り、訪問診療患者数及び訪問看護患者数の増加に努めていただきたい。</p>

	(8)	感染症への対応	3	<p>第二種感染症指定医療機関として、感染症患者の受入体制を整備するとともに、保健所や地域の医療機関と連携した受入訓練を実施し、連携医療機関との定期的な情報共有を行うことで、地域における対応体制の強化を図ったことを評価できる。</p> <p>引き続き、感染症対策において、地域の中心となる病院として、地域全体の感染症対策の向上に寄与していただきたい。</p>
2 医療提供体制の整備				
		小項目	評価	意見等
	(1)	優秀な医療スタッフの確保	2	<p>医師の確保については、従来からの取組に加え、医師紹介会社を利用することで、新たな医師を確保したことを評価できる。</p> <p>しかし、看護師については、採用のための取組を強化しているところではあるが、年度計画の目標値との乖離がみられる。</p> <p>また、看護師の時間外勤務時間数及び退職者数は削減されており、ワーク・ライフ・バランスの向上が図られているが、離職防止策を更に推進する必要がある。</p> <p>看護師の確保及び定着については、医療提供体制の整備や病床稼働率の観点からも喫緊の課題として、継続して取り組んでいただきたい。</p>
	(2)	医療スタッフの専門性・医療技術の向上	2	<p>研修参加及び資格取得支援規程に基づく支援を継続しており、各部署において研修や学会等に積極的に参加し、最新知見の習得と専門性の向上に努め、病院経営に貢献するスキルと知識の習得を促進する役職者向けの研修も実施していることを評価できる。</p> <p>しかし、今期に関しては年度計画に掲げた指標の半分以上（認定看護師新規取得者数、臨床指導者数、認定看護管理者（セカンド）数）を達成できていないことから、職員の育成及び医療の質の向上に課題がある。</p>
	(3)	多職種連携に基づくチーム医療の実践	3	<p>多職種が参加する診療科ごとのカンファレンスのほかに各病棟で地域医療連携部の看護師及び社会福祉士、各部署リンクナースが中心となり退院支援カンファレンスを行うことで、院内の部署や職種を越えた連携体制の強化に努めたことを評価できる。</p> <p>引き続き、入院から退院まで切れ目のない支援を提供いただきたい。</p>

3 患者・住民サービスの向上			
小項目		評価	意見等
(1)	患者及び患者家族の満足度向上への取組	3	<p>患者満足度調査の結果を踏まえ、駐車場の出口の増設や案内板の設置などの改修を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症のため、制限していた入院患者の面会を、5類感染症への移行と、近隣医療機関の状況を踏まえ、面会制限を緩和するなど、患者及び患者家族の安全面及び満足度向上に努めていることを評価できる。</p> <p>引き続き、患者及び患者家族のニーズを把握し、一人ひとりの個別性に配慮して対応することで、満足度の向上に努めていただきたい。</p>
(2)	利便性及び快適性の向上	3	<p>マイナ保険証の使用をポスター掲示や声掛けにより推進し、機械による読み取りに移行したことで、保険証確認窓口の混雑が解消されたことを評価できる。</p> <p>引き続き、利便性及び快適性の向上に努めていただきたい。</p>
(3)	健康増進、疾病の予防及び予防医療の活動	2	<p>生活習慣病や予防医学についての講演会は、地域住民の健康増進及び疾病の予防の観点から、開催について検討いただきたい。</p> <p>健診及び人間ドックについては、新たに整備したちくせい総合健診センターにて実施されているが、受診者数は目標値に達していない。</p> <p>開院初年度であり、すでに他の医療機関と受診契約が決まっていた企業が多かったこと等の影響は考慮されるが、一方で計画段階において十分に想定できる状況であることから準備不足だったと言わざるを得ない。</p> <p>健診受診者数及び人間ドック受診者数の増加のため、企業等への広報活動を強化するとともに、地域住民への情報発信をすることで、地域住民の健康増進に寄与していただきたい。</p>
(4)	病児保育への取組	3	<p>受入れ実施地域の保育施設に対し、病児保育の利用方法を記載したパンフレットを配布し、病児保育事業における制度全般（実施内容、利用対象者、利用手続等）について周知するとともに、市内の5か所の保育施設を訪問し、感染症予防対策や注意喚起、病児保育の利用方法について直接説明を行い、保育現場における感染予防対策の強化を図ったことを評価できる。</p> <p>引き続き、地域における感染予防への意識向上に向けた取組を推進していただきたい。</p>

4 地域医療連携の強化			
小項目		評価	意見等
(1)	地域医療機関、かかりつけ医との連携 (2人主治医制)	3	<p>さくらがわ地域医療センターとの担当者会議、地域の医療機関との共同機器利用の推進、救急勉強会の開催など、地域医療連携の強化を図っていることを評価できる。</p> <p>引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、紹介率及び逆紹介率の向上を図ることで、2人主治医制を推進いただきたい。</p>
(2)	地域医療支援病院としての取組	3	<p>地域医療支援病院として、紹介率及び逆紹介率の増加、高度医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修の実施などに努めていることを評価できる。</p> <p>また、近隣医療機関に訪問することで、地域の医療機関との関係強化に努めていることを評価できる。</p> <p>引き続き、患者が身近な地域で医療を受けられるよう、地域の医療機関と連携を強化し、効率的かつ質の高い地域医療提供体制の構築に努めていただきたい。</p>
5 信頼性の確保			
小項目		評価	意見等
(1)	医療安全対策等の徹底	3	<p>患者や職員の安全確保のため、インシデント事例に関するカンファレンスを毎日行うことで、情報収集と分析に努めていることや、全ての職員を対象とした医療安全対策研修で意識の向上を図っていることを評価できる。</p> <p>引き続き、インシデントの積極的な報告体制を維持し、医療事故発生防止に努めていただきたい。</p>
(2)	法令、行動規範、病院理念等の順守	1	<p>関連法令等の改正に伴い、法人の関連規程を適切に修正することで、業務運用を改めたことを評価できる。</p> <p>しかし、職員による横領事案が発生したことで、社会的信頼を著しく損ねたことは極めて遺憾である。このような事案が二度と起こらないよう、全職員が高い行動規範と職業倫理に基づき業務を実施するとともに、法令順守を徹底していただきたい。</p> <p>併せて、設立団体として、法人の信頼を回復するべく、内部統制を強化することにより、組織運営の改善を図るとともに、管理体制の再構築及び再発防止策の徹底を強く求める。</p>

	(3)	地域や関係者に開かれた医療施設としての取組	3	<p>真壁医師会との連携懇話会を開催し、地域の開業医との関係づくりを推進したことを評価できる。</p> <p>また、病院フェスタを開催し、317名の市民が参加するなど、地域の住民や関係者に開かれた医療施設としての取組を行ったことを評価できる。</p>
--	-----	-----------------------	---	---

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、2.6であり、B評価（計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価 項目数	5 大幅に上回って 実施	4 上回って実施	3 順調に実施	2 十分に実施でき ていない	1 大幅に下回る
1 地方独立行政法人としての業務運営及び管理体制の構築	2			1	1	
2 勤務する職員に魅力ある病院づくり	3			2	1	
合計	5	0	0	3	2	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 地方独立行政法人としての業務運営及び管理体制の構築			
小項目		評価	意見等
(1)	効率的な運営及び管理体制の確立	2	<p>会議体を統合し、効率的な運営の実現を図ったことは評価できる。</p> <p>しかし、職員のスキルや経験、特性や希望に応じて異動を行い、組織と職員双方の成長を図ったが、職員の労働意欲の向上につながらなかった。</p> <p>また、経営方針が幹部職員に十分に共有されておらず、その結果、具体的な運営方策が現場職員まで浸透していない状況であり、コンサルタントによる課題の分析は実施したが、具体的な対応策の実行が不十分であった。</p> <p>全職員が課題を共有し、経営に対する責任感やコスト意識を持って経営に参画し、継続的な改善のもとで業務運営の実施に努めていただきたい。</p>
(2)	事務職員の職務能力の向上	3	<p>年度計画に基づき、役職者を対象とした研修をはじめ、課ごとの実践的な研修を実施し、人材育成を推進したことを評価できる。引き続き、研修の充実化を図り、経営改善ができる人材の育成に努めていただきたい。</p> <p>また、経営コンサルタントと連携のうえ、経営改善会議を2回開催し、人員・経費削減を中心に取組を進め、アクションプランを策定・実行したことについても評価できる。進捗管理の精度を向上させ、経営改善の着実な成果につなげていただきたい。</p>
2 勤務する職員に魅力ある病院づくり			
小項目		評価	意見等
(1)	意欲を引き出す人事給与制度の整備	3	<p>刷新した人事評価制度の定着と、職員の意欲向上につながる制度運用を目的として、人事制度検討委員会を計6回開催し、評価表の内容や運用上の課題について検討を行ったことを評価できる。</p> <p>引き続き、運用上の課題の見直しを実施することで、制度のブラッシュアップを図っていただきたい。</p>
(2)	職員満足度の向上	2	<p>医療現場においては、業務負担の増加や長時間労働など、職員満足度が低下しやすい状況が課題となっている。</p> <p>職員満足度の向上を図るうえで、職員アンケートを実施することで、勤務条件や職場の課題を可視化し、対応を講じることは有効であるが、現場の実態を正確に把握する観点から、回答率を向上させる取組が求められる。</p>

				<p>また、アンケートを3月に実施したことで、年度内に分析がされていない状況であり、アンケート結果を次年度の年度計画等に反映ができていないことから、アンケート実施からフィードバックまでのスケジュールを見直していただきたい。</p>
(3)	働き方改革への取組	3	<p>働き方改革への取組として医師の業務負担の軽減や、長時間労働の是正のため、医師事務作業補助者による業務支援の幅を拡大したことで、タスク・シフト/シェアが推進されていることを評価できる。</p> <p>また、院内保育所について、夜間保育の対象年齢を拡大するとともに、早期の職場復帰を支援するため、最低預かり年齢を緩和することで、仕事と子育ての両立を支援し、安心して働ける環境の整備に努めたことを評価できる。</p> <p>引き続き、職員にとって働きやすい環境の整備に努めていただきたい。</p>	

3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果

C

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、1.5であり、C評価（やや遅れている）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価 項目数	5 大幅に上回って 実施	4 上回って実施	3 順調に実施	2 十分に実施でき ていない	1 大幅に下回る
1 経営基盤の構築	1					1
2 収益の確保と費用の節減	2				1	1
3 計画的な投資と財源確保	1				1	
合計	4	0	0	0	2	2

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 経営基盤の構築			
小項目		評価	意見等
(1)	経営基盤の構築	1	<p>現在の物価高騰や賃金上昇など病院を取り巻く環境が厳しくなっている中で、地域における役割と責務を果たすため、DPC制度を意識した病床運用による診療単価の向上、病棟再編、入院患者の受入れ強化を行うとともに費用の削減を行い、安定した経営基盤の構築に向けた取組を行っている。</p> <p>しかし、今期は入院患者数の目標未達成による収入の減少、物価高騰による光熱水費や消耗品費等のやむを得ない費用増があるものの、医療情報システム更新に伴う減価償却費の増加により費用が増加している。</p> <p>その結果、目標とした経常収支比率 100.1%は 85.5%、医業収支比率 95.0%は 79.2%と大幅に下回り、収支の累積赤字が増大しており、安定した経営基盤の確立には至っておらず、非常に厳しい財務状況となってしまった。</p> <p>また、予定される診療報酬改定は収益の拡大につながるものの、入院患者数の確保や病床稼働率の向上等、病院の業務運営の改善が早期に実現できなければ、今後の収支状況や資金繰りを考えると経営は危機的な状況と言わざるを得ない。</p>
2 収益の確保と費用の節減			
小項目		評価	意見等
(1)	収益の確保	1	<p>関係医療機関への紹介・逆紹介の増加、診療報酬に係る各種管理料等の新規算定の提案、未収金対策の強化等、収益の確保に取り組んでいる。</p> <p>さらに、救急外来からの入院や紹介患者の積極的な受入れに取り組み、多職種連携による早期退院支援を推進し、入院患者数の確保や診療単価の向上に取り組んでいる。</p> <p>しかし、今期は入院診療単価の目標を上回った一方で、特に 1 日平均入院患者数は目標を 38.4 人と大幅に下回り、病床利用率も目標を 15.4 ポイントと大幅に下回った。</p> <p>また、平均在院日数については、急性期病棟の一部を地域包括ケア病棟へ転換する準備を行っており、その影響は考慮されるものであるが、目標を下回っており、収益の確保には至っていない。</p>

			<p>外来患者数は目標を上回った一方で、外来診療単価が目標を下回ったため収益の増加には至っていない。</p> <p>大半の収益確保の指標が未達成であり、大幅に下回る部分があるため、経常収支比率、医業収支比率等に与えた影響は大きく、収支の累積赤字が増大したことは大きな問題である。</p>
	(2)	費用の節減	<p>2</p> <p>医療材料や事務物品、委託費用等について、様々な取組を行い費用の削減に努めており、材料費については昨年度よりも減少している。</p> <p>医療材料や医薬品の調達に関する取組、委託業務の一部を見直し内製化の推進等に取り組んだ点は評価できる。</p> <p>また、効率的な病院経営を行うため、経営に関する会議において、各部門に各種指標や収支状況等の共有を図っている。</p> <p>さらに、人件費対医業収支比率を意識して職務・役割の見直しや人員配置の適正化を図り、昨年度に比べ人件費が減少している。</p> <p>しかし、材料費や人件費の減少よりも、経費や電子カルテ更新に伴う減価償却費が増加している。経費については物価高の影響もあり、やむを得ない部分はあるが、経営改善に向けて大きな課題である。</p> <p>今期は費用全体として増加となったことから、計画に対する取組は不十分であり、引き続き費用の削減を図る必要がある。</p>
3 計画的な投資と財源確保			
	小項目		評価
	(1)	計画的な投資と財源確保	<p>2</p> <p>医療機器について、中長期的な更新の見通し等、現場の意向調査を実施し、投資計画を作成した上で設備投資を行っていることは適正であり、緊急性や必要性、投資効果等の検証も行っていただきたい。</p> <p>しかし、財源確保については、収支赤字が続いており、非常に厳しい状況である。電子カルテ更新の必要性は理解できるものの、その減価償却費負担は大きく、計画と大きな乖離のある経常収支比率や医業収支比率を見ても、設備投資や人材育成支援に向けた財源の確保はできていない。</p>

4 その他業務運営に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、3.0であり、B評価（計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価 項目数	5 大幅に上回って 実施	4 上回って実施	3 順調に実施	2 十分に実施でき ていない	1 大幅に下回る
1 環境問題への取組	1			1		
合計	1	0	0	1	0	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 環境問題への取組			
小項目		評価	意見等
(1)	環境問題への取組	3	<p>職員一人ひとりが環境問題を意識し、ごみの分別を徹底するとともに、各部署において、リサイクル可能な資源ごみを適切に分別できる環境を整備していることを評価できる。</p> <p>また、再生可能エネルギーの推進のため、ソーラーカーポートを導入し、院内の電力需要の一部を再生可能エネルギーで供給する取組を行っている。</p> <p>引き続き、筑西市が目標として掲げるゼロカーボンシティの実現に向けて、環境負荷の低減と持続可能な医療を推進していただきたい。</p>